

教育長紹介



北海道

くらもと ひろし
倉本 博史

「子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる環境づくりが大切であり、できなかったことができる喜び、知らなかったことを理解する楽しさを実感できる教育を目指したい。」と抱負を語る。

また、「広域分散型の北海道において、子どもたちがどの地域に住んでいても質の高い教育を受けられる環境を整備し、充実した学びのプロセスを通じて時代の変化の激しい波を乗り越えていく力を身に付けることができるよう、全力を尽くす。」と意欲を示す。

平成11年北海道庁に入庁。経済部次長、経済部長、総合政策部長などを歴任し、本年6月に教育長に就任。60歳。

(北海道教育庁総務政策局教育政策課長 荒川 裕美)



島根県

のつ けんじ
野津 建二

「現場をよく見て、多くの人の話を聞いて、柔軟に考え、わかりやすく説明し、効果が上がるように実行していくことで、『施策の実現力』を高めて、教育行政に当たっていきたい。」と抱負を語る。

また、「子どもたちの将来の選択肢を拡げ、そして希望する道に進むために必要な関心や学力を身に付けさせることを、学校だけではなく、家庭や地域の理解、協力をいただきながら進めていきたい。」と意欲を示す。

昭和59年島根県庁に入庁。社会教育課長、保健体育課長、政策企画監、財政課長、総務部次長、政策企画局長などを歴任し、本年7月に教育長に就任。60歳。

(島根県教育庁総務課長 小畑 芳夫)



札幌市

ひのきだ ひでき
檜田 英樹

「少子化に伴う人口減少や就業構造の急激な変化など、大きな社会の転換期を迎える時代において、札幌の教育が目指す人間像『自立した札幌人』の実現に向け、教育施策にしっかりと取り組んでいきたい。」と抱負を語る。

併せて、「教職員が情熱や深い愛情を持って子どもたちに向き合い、自信と誇りを胸に札幌市の教育を実践していけるよう、また、札幌市の教育行政のさらなる発展のため、自身の学校現場での経験を活かしつつ、全力を尽くしていきたい。」と意欲を示す。

昭和59年、札幌市教育委員会に中学校教諭として採用。札幌市教育委員会学校教育部教職員担当部長、同学校教育部長、教育次長を経て、本年5月に教育長に就任。60歳。

(札幌市教育委員会生涯学習部総務課長 井上 達雄)